

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191300041		
法人名	社会福祉法人慈恵会		
事業所名	さわやかグループホームさかほぎ		
所在地	岐阜県加茂郡坂祝町黒岩165-1		
自己評価作成日	平成25年10月7日	評価結果市町村受理日	平成25年12月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2191300041-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成25年10月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1ユニット9人の小規模の利点を活かし、フットワーク良くアットホームにできる限り自由に、家庭と変わらぬ生活を追及している。地域との交流では、廃物利用クラブや切手収集、傾聴ボランティアさんに定期的に来て頂いている。また、「臨床美術」を実践するボランティアによる、脳の活性化を促す手法を取り入れている。毎週1回のヤクルト販売員の訪問などを通じて選択の機会の確保にも努めている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは、法人総合施設の一部門を担っており、法人各施設の機能と連携体制にある。特にエリアが同じの隣接施設の協力関係は職員や利用者・家族の安心感に繋がっている。残存機能を活かした体操やホーム内の巡回歩行、居室や共有場所の雑巾がけ等を日課とし、利用者の身体機能低下予防の取り組みを継続している。食事も食材の買い出しから調理と、家庭の営みを大切にしている。また、地元の多くのボランティアとの交流を深め、利用者の日常生活の活性化と、ホームに地域の情報や風を運んでくれる環境づくりに努めている。行事や防災対応では、行政・自治会・地元企業等との連携の輪を築き、地域の福祉拠点としての役割を果たしている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	慈恵会基本理念を毎週月曜日に職員全員で唱和し、その都度理念を共有している。	法人全体の共通理念を、エリアを同じにする隣接施設の職員と合同の集まりで確認し、共有している。その理念は玄関に掲げられている。ホームとしての理念にあたる目標は、事務室に表示しており、地域と密接に関わる取り組みが実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接施設の行事等に参加している。また、町民まつりにも参加し、地域の一員として交流している。事業所周辺は地域の人の散歩コースなので日常的に挨拶を交わしている。	隣接施設と合同の夏祭りや町民祭り、福祉フェスティバルなどに積極的に参加している。大勢のボランティアや、障害者によるパン販売、ヤクルト販売と地域の人の出入りが多くあり、幼稚園との交流もある。広報誌の地域回覧が実現している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	廃物利用クラブで作った作品を町民まつりのバザーに提供したり、寄付している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は、役場福祉課・民生委員・幼稚園園長・家族代表等の参加で2か月に1回開催している。事業運営報告を行い、意見、要望をサービス向上に繋げている。	会議のメンバーには幼稚園児との交流が縁で、幼稚園長の参加も得られている。参加者からはホームの運営などについての意見を出してもらい、サービスの向上に活かしている。家族等の参加が少なくなり課題としている。	会議には家族の参加も望む所だが、地域のボランティア、合同で行事を取り組んでいる施設職員、消防署、町内企業等、ホームにかかわりのある人や団体など、幅広い参加メンバーの工夫も期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議だけでなく、毎月開催される事業所連絡会議に出席し、事業所の入居状況や待機者について報告している。	開催日が土曜になることが多い運営推進会議の出席や、避難訓練にも参加の協力がある。町から土地の貸与、建物の補助を受けてホームが運営されており、町の協力姿勢が伺える。昨年度は外部調査が免除対象事業所として町に申請し、免除になった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束の意味を十分理解し、身体拘束のないケアを実践している。また玄関においても人の出入りをセンサーで感知し、チャイムで知らせ、夜勤帯の安全確保できないとき以外は自由に出入り出来るように開放している。	昨年の改善点であった、玄関出入りを知らせるチャイム音は適切な音量に設定されていた。身体拘束をしないケアに伴う事故のリスクは、ヒヤリハット記録を活用し、職員の拘束しないケアの実践に繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について学んでおり、職員一同周知し、虐待防止に努めている。		

岐阜県 さわやかグループホームさかほぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学んでいるが、現在は適応する人がいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書の取り交わしについては、事前面接さらに入所時にも十分な説明を行っている。ご家族からの疑問な点は質問して頂き理解を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者、ご家族の意見要望について、担当者会議や面会時に確認するとともに、毎年満足度調査(アンケート)を実施し意見収集に努め、いただいたご意見には職員全員で真摯に回答しサービスの向上に努めている。	エリアを同じにする施設との合同発行の通信を年4回と、利用者の近況報告を毎月、家族に出している。報告書には家族の意見や要望を書く欄も設けている。家族アンケートの実施や、利用者の代弁的存在になる外部相談員の設置があり、利用者の声を運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月施設長を交えた職員会議で意見や提案、ケアの気づきを聞き、意見交換を行っている。職員からの意見、提案をホームの運営に活かしている。	法人内で管理者の方から職員に、意見や要望を積極的に聞く姿勢で、運営に携わっている。職員会議や日常業務の中で、意見や提案等を聞き、同じエリアの施設を統括する施設長や主任相談員、ホームの管理者が連携して、職員の声を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の業務のストレスの要因について気を配り、職員同士の間人関係を把握するようにして、実績、努力、業務状況の確認に努め、個々の健康、環境にも目を向けた上で、向上心や勤労を奨励している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人研修委員会を構築し、新人、中堅研修等の修得段階に応じてコースを設定している。外部研修、法人研修の取り組みには、勤務調整を行い参加を可能にするように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当法人グループホーム7事業所が「向上委員会」として2か月に一度のサービスの質、コンプライス等に関する情報交換や学習会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所に際し、担当ケアマネージャからの情報を基本に直接ご本人、ご家族から心身状況。生活歴、家族構成、趣味、性格等、可能な限りの情報を収集しアセスメントに反映し不安や要望等を把握し安心確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の悩み、環境を把握して、ご本人、ご家族の望まれる支援に努めている。サービス開始後も面会時や近況報告等にて情報収集の機会を持ち信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	常にご利用者ご家族の立場に立ち、近況の把握と傾聴により、可能な限り柔軟な対応を行い方向性が見だせるよう、ご助言をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はご利用者の生活歴や心身の状況を観察し、ともに掃除や洗濯、調理等を行い、散歩や買い物等暮らしの中での役割を持っていただき、ご自身のやりがいの発見を心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や面会時のときには、日常生活の様子を伝えている。また、ご利用者と、ご家族への温かい思いをお伝えし、本人と家族の絆を大切に深めるように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出、外泊は規制しないことを基本に、訪問を奨励している。また地域の町民祭り等にも積極的に参加し、馴染みの関係が途切れないようにしている。	町民祭りや福祉フェスティバル等の地域行事に参加し、馴染みの人と出会う機会を作っている。家族の同意を得て、通夜の参列を実現させたり、空き家になっている自宅に立ち寄り、安心感を持ってもらうなどの支援もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員がキーになることを心掛けている。相性の合わないご利用者のトラブル等には間に入り、それぞれの方の居室にて心の訴えに傾聴し、安心して頂けるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時の連絡調整、情報提供、相談援助を行いながら、退所先でも円滑に支援が受けられるよう助言支援をしている。時々施設訪問も行っている。」		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者個々のやりたい事、できる事を、日常の会話や家族からの「情報で把握している。その日の気分や体調に合わせて、散歩や、アクティビティなど個々の意向に配慮し支援している。	長期の利用者には、今の日常生活がマンネリにならない様、利用者の思いや希望を聞いたり、行動から察するように気を付けている。職員が時には利用者の娘であったり、親になったりと、会話の中で気持ちを合わせながら本音を引き出し、ケアに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者との会話を中心にご家族、知人の方々から情報を収集し把握に努めている。中には様々な理由で把握が難しいケースもあり、ケースバイケースでできる限りの取り組みを実施している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の観察により、普段と違いに気づきに努める事を基本としている。また加齢に伴う体調変化のリスクに留意し、必要に応じたバイタルチェック、食事や排泄状況を把握し、朝、夕の申し送りにて対応の統一を確認している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意向を伺い、双方の意向を反映したご利用者主体の介護計画を作成している。また3ヶ月毎の見直しと、状態の変化に応じ随時見直しを行っている。	本人や家族の意向を踏まえた介護計画を作成している。日々の記録をパソコンデータに入力することで、実践と計画がリンクし、進捗状況を把握することが出来る。モニタリングも定期的に行われている。身体機能低下予防に力を入れた介護計画になっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々ケアプランに沿った経過記録を残し、モニタリング、評価表を通して実施結果を評価し、次のケアプランに活かす努力をしている。また、体調変化は記録に残し、職員間の情報共有、必要に応じてご家族に電話にて、状態をお伝えし理解を促しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の福祉施設内の機能を生かし、行事に参加、設備の共有がいつでも可能である。その時々家族の要望や、ご利用者のその日の状況によって柔軟に対応している。		

岐阜県 さわやかグループホームさかほぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域消防署の指導のもと地元自治会や企業との防災協定を締結し、総合防災訓練を行っている。また、民生委員や、ボランティア、保育園等と日頃より交流し豊かな暮らしを提供できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の協力により受診、通院を行っている。事情により外来受診が出来ない場合は、職員が同行している。また、主治医との連携を密に摂っている。	協力医の訪問診療はないが、併設施設の看護職員や主治医との連携が図られている。利用者個々のかかりつけ医の継続や協力病院への受診は家族の対応で行われている。事情によっては職員の同行もあり、適切な医療支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師との連携により日頃より医療面の指導助言を受け、急変時には相談助言の体制を構築している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先のソーシャルワーカー、主治医、看護師と連携をとっている。入院先は定期的に見舞うようにしてご家族と共に情報交換をしながら退院の支援に結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期については、入居前に事業所の方針をご本人、ご家族に十分に説明し、了承を得ている。終末期には退去してもらう方針である。退去後の受け入れ先の確保等、ご利用者、ご家族が安心して頂けるよう支援している。	利用開始前にホームの方針を説明しており、入居時点で、介護施設等の入所申し込みを並行して行っている利用者がほとんどである。転居の時期は利用者、家族、ホーム、かかりつけ医、受け入れ先等と十分な話し合いの下での支援体制になっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルの常備またご利用者の急変や事故発生時に備えて、併設施設の看護師から、応急手当の仕方や初期対応の仕方など指導助言を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月一回の自主避難訓練を実施している。また行政や地元自治会と合同で、夜間や風水害などを想定した訓練を積極的に実施している。運営推進会議などで報告し、ご利用者ご家族に周知していただいている。3日分の備蓄もそなえている。	年3回の避難訓練は、行政や地域自治会との合同訓練、エリアを同じにする隣接施設との合同訓練、夜間想定、職員が自宅からホームへ駆けつける時間を計る訓練など、いろいろな設定で行われている。自主訓練にも利用者の可能な限りの参加がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の人格を、誇りを尊重し、プライバシーの確保を徹底し、尊厳と権利を守り、職員は十分理解して、言葉かけや関わり方を配慮した対応を心がけている。	プライバシー保護のマニュアルが整備されており、職員に周知されている。長期入居利用者も多く、職員の声掛けや態度が慣れあいになり、利用者の尊厳を損なう事がないように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でご本人の思いや希望を表現できる場面を作るよう働きかけている。意志表現のあまりできない方には、表情をみて、ご本人に添える支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースで1日を過ごして頂いている。家事手伝い、頭の体操、機能訓練など、ご利用者の希望に沿ってその人らしく過ごしていただけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の選択はご利用者がされ更衣される。できない方は職員が付添い一緒に行っている。散髪は移動美容室に依頼し、好みのスタイルになるような支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物はご利用者と一緒に出掛け選んでもらっている。調理の下準備等、配膳、片付け等ご利用者の力を発揮できる役割を引き出し職員と共に行っている。食卓もご利用者と一緒に囲み会話も賑やかである。また、季節の料理も多く取り入れるようにしている。	加齢による身体機能低下が見られる利用者も増え、その人の状態に配慮しながら、食材の買い出しから調理、配膳、片付け等、利用者と共に食事作りをしている。月1回の外出、行事の時の特別食、テラスでバーベキューをするなど、職員と一緒に楽しく食べる機会を多く取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、食事量、水分量の摂取量を把握し、必要な人には栄養補助食品をとって頂いている。併設の管理栄養士に毎月栄養チェックをもらい、指導助言を受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けをしている。自己にてできない方は、職員が介助し、夜間は義歯の方はポリドントに浸け、清潔保持に努めている。		

岐阜県 さわやかグループホームさかほぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄リズムを尊重し、介助の必要な方はプライバシーに配慮しながら対応している。また、尿意、便意のない方においては、定期的にトイレ誘導を行い、排尿、排便のタイミングを見つけるよう支援をしている。	排泄チェック表を活用し、排泄リズムに合わせ、トイレでの排泄支援に努めている。夜間帯もポータブルトイレを使用せず、トイレ誘導で対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンは個人差があり、便秘対策として食事、水分補給、毎日の体操等本人の状況に合わせて毎日働きかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は基本的に週3回以上で毎日のきぼうがあれば対応している。しょうぶ湯、ゆず湯など季節のものは必ず取り入れている。通常は入浴剤を利用し温泉気分を味わっていただいている。	週3回、午後の時間帯の入浴支援であるが、利用者の希望や必要に応じて入浴はいつでも可能である。洗い場は広くゆったりしている。下肢機能低下がある利用者の入浴が職員2人介助となることもあり、支援の検討が必要となる。	入浴介助の職員負担に配慮しながら、福祉用具等の活用も視野に入れ、介助の工夫や対応を検討されたい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣やその時々状況に応じて自由に休息して頂いている。また、夜間も希望の時間まで自由にテレビ観て、穏やかに気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の目的、用法など理解しており、ご自分で服用できない方には、確実に手渡しし、飲んで頂くまで確認し、誤薬のないよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や力を活かした役割を考え家事手伝いをして頂いている。また、クラブ活動を通して楽しみ事や気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や季節に配慮しながら、散歩や買い物に出かけています。最低でも、月一回の外出に出掛けている。	リビングから庇のある広いテラスへの出入りは自由で、天候と利用者の体調に配慮しながら、外気浴の声かけや支援をしている。ホームの周辺の散歩や、エリアを同じにする施設の車の送迎協力で、近隣市町村の観光施設まで、足を延ばした外出もしている。	

岐阜県 さわやかグループホームさかほぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在自己管理できる方がいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があればその都度対応しています。ご家族からの電話を取り次ぎお話をさせて頂いています。また要望や促しにより、年賀状や手紙の統監のの支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室と共用空間はご利用者と共に毎日掃除し隅している。木のぬくもりのある建物で天井も高く斜光もやさしいご利用者が自分の力で動けるように手すりを設置し、障壁のない空間を確保している。また、廊下には行事や外出時の写真を貼りだしている。	利用者も職員と一緒に雑巾を手にし、出来る範囲で拭き掃除をしてもらい、ホーム全体が清潔である。時計やカレンダーの設置もあり、来訪者やボランティアと談笑したり、新聞を読んだり出来るソファが用意されており、明るく寛げる空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用のテレビはホールにあり、いつでも自由にみることができる。一人になりたい方は、自室でテレビを観たり、読書されたりと使い分けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には洗面台、ベット、タンス、押入れを備え付けている。個々に思い思いの飾りつけをしている。居室の入り口には、ご自分の部屋と認識できるように気の表札をかけている。	自宅からの持ち込み品を拒む利用者の対応には、利用者や家族の意向を尊重し、その人なりの居心地よい居室に配慮している。利用者の中には、テレビを持ち込み、好きな番組を楽しむ人もいる。定期的な布団干しで、ベッド周りの清潔にも努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで玄関、廊下、浴室には手すりが設置されていてご本人に寄り添うケアに努めています。		